

## 2018年12月の金融経済概況のポイント

### ■景気の基調判断

- 11月に「道北地域の景気は、基調としては緩やかに持ち直しており、北海道胆振東部地震の影響による下押し圧力は緩和を続けている」と判断をやや引き上げましたが、今月はその判断を維持しました。
- 公共投資は災害復旧工事の一巡から減少しているほか、住宅投資も減少しています。個人消費もやや弱めの動きとなっています。一方、地震後に風評被害を被った観光は持ち直しの動きを続けています。
- 雇用面では、労働需給が引き締まっており、金融機関の貸出も前年より増加しています。
- 本日公表した道北地域の日銀短観（12月調査）の事業計画を見ると、計数がほぼ固まったと思われる2018年度上期については、売上高、経常利益、当期純利益が前回調査比で上方修正されています。しかし、公共投資の減少や地震後の観光面における風評被害の影響から業況判断DIは前回比低下しており、同上期の設備投資額も前回調査比で下方修正されました。マイナード面の慎重化が設備投資に抑制的な影響を及ぼしていくのかどうかは、今後、道北地域の経済を見るうえで、一つのポイントと言えます。

### ■個人消費の動向

- 11月の大型店売上高は、前年を下回りました。土日祝日の数が今年は前年より少なかったこと（昨年10日→本年9日）に加えて、平年より気温が高く推移し、初雪（平年より22日遅い）、積雪（同17日遅い）が記録的に遅れたことも衣料品ほか季節商品の売り上げに影響したようです。
- 11月の新車登録台数は、軽を除く普通乗用車の好調から、2か月連続の前

年比プラスとなりました。

## ■観光の動向

- 観光は、北海道胆振東部地震の風評被害から持ち直しています。
- 道北 4 空港（旭川〈速報値〉、稚内、女満別、紋別）の旅客数をみると、11 月は紋別空港を除く 3 空港で前年を上回り、全体で 5 か月振りに前年比プラスとなりました。このうち 11 月に国際線ビルが開業した旭川空港では、国内線が前年を上回ったほか、国際線も、去年はチャーター便だけであった一方、本年はチャーター便のほか定期便（台北便）も運行しているため、前年を大きく上回っています。
- ホテル・旅館宿泊者数は、11 月、前年を下回りました。この間、旭川市内では、ホテル客室稼働率が前年をやや上回りました。市内では、ふっこう割の効果に加え、層雲峡地区における宿泊施設耐震工事による宿泊客の市内流入の影響もあったようです。
- 各地観光施設の入込みは、11 月、旭山動物園や利尻・礼文フェリーで前年を上回りましたが、層雲峡地区、網走監獄、ウトロ温泉では前年を大きく下回り、全体でも前年を下回りました。

## ■公共投資の動向

- 上川、宗谷、オホーツクの 3 総合振興局における公共工事請負金額は、11 月、全地区で前年を上回り、全体でも 2 か月連続で前年を上回りました。全地区で前年を上回るのは 20 か月振りです。公共投資の先行指標となる請負金額には下げ止まりの兆しが窺えます。但し、4～11 月の累計では、宗谷は前年を上回りましたが、上川、オホーツクは前年を下回り、全体でも二桁の前年割れを続けています。

## ■住宅着工

- 新設住宅着工戸数は、10月、貸家が前年を下回りましたが、持家が3か月振りに前年比増加となったほか、ウェイトは小さいながらも分譲が前年比増加を続けていることから、全体でも若干ながら6か月振りに前年を上回りました。

## ■住宅以外の建築物

- 建築物着工床面積（非居住用）は、10月、3総合振興局において4月以降7か月連続となる前年比減少を続けており、旭川市においても5か月連続の前年比減少となりました。

## ■雇用

- 雇用状況は、引き締まっています。10月の有効求人倍率は、北見、網走において前年同月を下回りましたが、高い水準が続いており、旭川、稚内は前年を上回りました。また、10月の新規求人数も、旭川、稚内、北見、網走の全地区で前年を上回りました。9月に地震の影響もあって、企業の求人活動が影響を受け、全地区で前年を下回りましたが、その反動が出た影響もあると思われます。

## ■今後のポイント

- 道北地域の短観（12月調査）では、公共投資の減少を映じて「製商品在庫水準DI」や「生産・営業用設備DI」の不足超幅が縮小したほか、震災後の観光面における風評被害などを映じて「雇用人員DI」の不足超幅が小幅縮小しました。一方、金融環境では、引き続き高水準の緩和感が保たれています。また、「仕入価格DI」（「上昇」－「下落」：9月+48→12月+36）の前回調査比低下幅が「販売価格DI」（同：9月+4→12月▲5）のそれより大きかったことは、企業の収益環境面で良い材料です。

- 道北地域の経済を見ていく上でのポイントとしては、①北海道胆振東部地震の影響による観光産業への風評被害について、かなり持ち直してきていますが、ふっこう割の効果に地域的な濃淡が窺われる中、今しばらく状況をフォローすることが適当です。また、②予想される災害復旧工事等の発注についても、人手不足感が高まる中、建設業者の受注動向に留意したいと思います。このほか、③短観に見られた企業の業況感の悪化が設備投資意欲の抑制に繋がらないか、④地震やエネルギー価格の上昇、農業の不作などの動向が消費マインドの慎重化に繋がらないかといった点に、引き続き目を配りたいと思います。

以 上